



同志社人物誌 (64)

山本宣治

小田切 明德

同志社倶楽部の山宣

「私は同志社倶楽部の昔馴染みの一人でございます」

山宣（やません、山本宣治 一八八九—一九二九）は一九二九年二月二日（金）の東京麹町丸ノ内東京会館での同志社倶楽部二月例会の晩餐後、こんな挨拶ではじまる講演を行なっています。その山宣は同志社出身の生物学者・性科学者で、ヒュマニズムに溢れる政治家（第二区選出の代議士）でした。

山宣ひとり孤塁を守る

だが私は淋しくない

背後には大衆が支持しているから

これは山宣が「死刑法」と呼んだ、治安維持法改悪の緊急勅令事後承諾案が衆議院本会議に上提される前夜の全国農民組合第二回大会での、弁士中止の直前の彼の演説の一部です（正確には、それを大山郁夫が墓碑名として書き換えたもの）。翌日、つまり前述の講演の十日ほど後の三月五日、彼は治安維持法撤廃を求める草稿を洋服のポケットにひそめて



墓碑名

国会へ臨みます。ところが発言の場を与えられなかった山宣は、その夜無念な思いで西神田小学校での東京市議選挙の応援に立ち寄り、宿舎の光栄館に帰った直後に刺殺されま

した。

さて、同志社倶楽部（赤坂青山南町青山会館内）の二月一六日付けの案内状によると、彼の演題は「議会への進出の第一印象と無産党の立場」と通知され、その内容は「同志社倶楽部講演集No.2。」（同年二月一〇日）に収録されています（ここで引用は『山宣全集』第五巻によった）。同倶楽部は東京在住の同志社関係者の、年に一、二回の集まりで、その年の一月には金森通倫、前年では柏木義円、安部磯雄らも講演しています*1。

この講演録には、三カ所伏せ字があり、国会での質問・答弁の議事録部分は省略されています。自分の母校であり、二年前まで教壇にたっていた山宣は、同志社人を前にして気分がよかつたでしょう。「昔馴染み」を前にしてかなり思い切りのいい語り口です。同志社時代の回想から始まり、「皆様と喧嘩して、弁当費十円也」辞めさせられ、「産児制限運動から労働者の解放運動」、ついに政治の渦中に投ずるに至った「経緯が前半に語られ、後半は議会での悪戦苦闘ぶりが紹介されています。山宣の伝記作家の佐々木敏二氏の指摘のように、「臨監もおらず、山宣は自分の言い

たいことを充分に話し」ていました*2。

山宣の生いたち

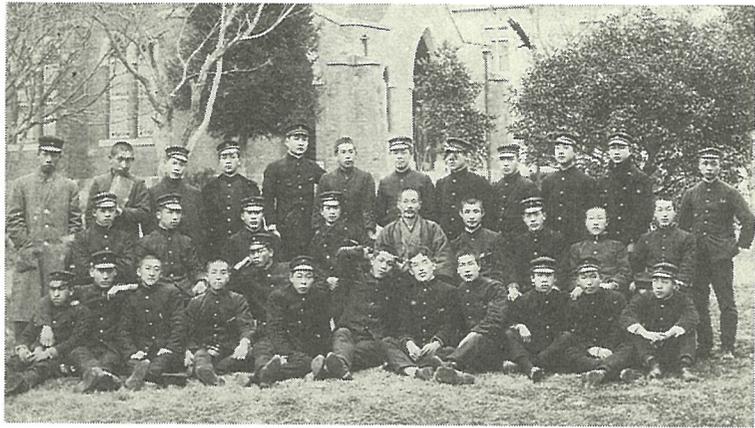
彼は明治のクリスチャン・ホームに生まれ、宣治と名づけられました（本年五月二八日は山宣の生誕一〇〇年記念日）。両親は京都四条教会の熱心な信者で、結婚の際の挙式は井手義久牧師、媒酌人は中村栄助夫妻でした。幼少の山宣はこうして同志社系の牧師や教育者からの影響を受けて育ちます。彼の神戸中入学時の日記での、教会生活をみてもそのことが裏付けられます。「二〇世紀大挙伝道」の説教や演説を積極的に聞きに出かけています。海老名弾正、原田助、宮川経輝をはじめとするそうそうたるメンバーが、そこに記載されております。少年期は病弱であつて、せつかくの神戸中学を一年たらずで中退します。この後、宇治の花屋敷で「花を

作つて世の中を明るくしたい」と園芸家を夢みます。そのため、大隈重信邸の園芸見習いに出かけたり、ついにはカナダまで出かけて苦学しますが、この志しは挫折します。この異境の地での五年間、多感な青年期に進化論や社会主義の初歩を学び、豊富な語学力を身につけます。

帰国した後、同志社普通学校（三高）東大と進学し、生物学を専攻します。東大時代、彼は新人会に共鳴し、生物学会の改革派を自認し、旧態依然とした当時の東大の生物学教



山宣の父母（亀松、多年）



同志社チャペル前で（前列右より5人目）

室を嫌い、京都大学に進みます。京都に戻った彼は、前述のように母校同志社の講師として、日本で初めての本格的な性教育を行い、京大では性学読書会をはじめます。

この頃を回想して同倶楽部では、東大時代の恩師五島清太郎の前に「イモリの生理発生と云ふやうな研究をやつて居る中に、何時の間にやらセックスの研究になつて了つたのであります。それは同志社のお陰で、帝大の研究室にばかり居れば斯く云ふ事にならなかつた」と語っています。

「弁当代一〇円」で首切り

ところで、前述のように山宣はカナダで苦学後、同志社普通科に入学します。では講演の続きです。「水崎さんにも特にお願ひして徴兵年齢の余暇が消えますれば、二年何箇月の御厄介になつて、後に御礼を六年間さして頂いて、其間に生理学を研究」したわけです。ところが、一九二六年、「丁度第一次の学生事件（京都学連事件）であります。一月五日に学生がレプセ一行を歓迎したために検挙されました。当時学生の下宿は片っ端から搜索さ

れ、私の所も河上（肇）さんのところも搜索されたのであります。……このため皆様が私を呼びつけて「生物学に特に誠意を持つてやつて居るとは思はれるが、此際一応退いてくれ」と云ふお話がありました。「然らば意見を闘はした上でなければ退職しない」（辞表を）渡せ、渡さぬと押し問答をして居る中に到頭辞めさせられ」と母校からの辞職のいきさつを述べています。

この時の前後の事情を少し補足します。一九二二年春、来日したサンガー女史との出会いから、彼は進んで産児調節運動にも携わりました。これを契機に学外に出向き、自由大学、労働学校の講師として活躍しました。ここで彼は性科学の啓蒙、普及の取り組みと庶民の生活の向上のために献身します、今言う「草の根」活動に加わりました。この山宣の活動は当時の保守的な学会、大学当局から忌み嫌われ、やがて京大、同大を辞めさせられる事態に発展しました。

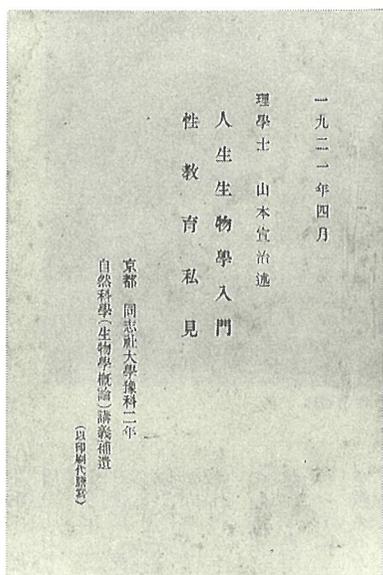
山宣はこうした攻撃に怯むことなく、南山城小作争議への支援をはじめとする、国民の暮しを守り、反戦平和の活動に精力的に参加します。彼は生物学者としての学問研究の継

続に終始こだわりつつも、まわりから押されて第一回普通選挙に労働党から立候補し、みごとに当選します。迫り来る中国大陸への侵略戦争の前に、自ら「戦争撲滅のために奮闘せよ!」のスローガンを掲げて、天皇制の政府の諸政策に真向から反対しました。こうした山宣の活動と山宣の存在そのものを、時の天皇制権力は許す事なく、前述のように尊い生命が奪われました、享年三九歳。

先駆的セクソロジスト

彼の短い生涯で追求したものは、「人生生物学」から「民理学Demography」の構築です。前者は、一九二〇年同志社大予科で始められた山宣の講義名で、日本で最初の本格的な性教育でした。翌年彼はそれをパンフにまとめ、広く有識者にも送り、学内外にはかりしれないインパクトを与えました。

後者の民理学の構想は、政治家・山宣のラスト・ヘビー直前の執筆論文に「性と人生統計」に、「民衆(デモース)記載学(グラフィヤ)のギリシャ語に基づく」



人生生物学入門 (パンフレット)

くものとして、その骨子が示されたに留まりました。ここで彼は、当時の科学への不信任はびこる傾向にさいして、科学の社会的機能と関わって、「科学は破産した」のではなく、個人の「金儲けのための」科学が危機に瀕しているのであり、「人生のための科学」の創造こそ科学者の進むべき道だ、

と自己の信念を表明しています。

さて、アメリカの性革命の先駆けとなった「キンゼー・リポート」は、戦後の日本人の性モラルにも大きな影響を与えました。その二五年前、山宣は「日本人男子学生の性生活の

必迫せる社会の現状
ヒナリは頼く農民も商人も学生も来れ!!

社会問題大講演會

八月十七日午后一時より
八木町 戎 座に於て

所 演 題 松本長八氏
無産者と産兒制限
同志社大専任教授

山本宣治氏
同志社大専任教授

新社会への道へ
同志社大専任教授

住谷悦治氏
同志社大専任教授

社会問題と法律
同志社大専任教授

小岩井淨氏
同志社大専任教授

早魁と小作問題
同志社大専任教授

資本主義社会制度の缺陷と就
同志社大専任教授

仁科雄一氏
同志社大専任教授

主 催 奈良縣水平社
勝氏

住谷悦治らと水平社の講演へ



大山、河上らと懇談

統計的研究」を京都医学会で発表しています。この詳細が『生理学研究』誌の「若い男の性

生活」と題して連載されますが、学会の保守層の圧力で中断させられました。この統計的研究は、京大、同大、東大、早大等での性教育後に、受講した学生を中心にして協力を得た「人生生物研究資料」（性生活調査）をまとめたものです。

出宣の性学の特徴はエリスやブロッホらの、当時の欧米の研究成果をふまえたもので、健全な青年の性生活の実態を統計学的調査で明らかにしたことです。今日でも自慰、性交を教えるのに大変な勇気が必要です。山宣の性教育や性学研究の業績はもっと高く評価されてよいでしょう。

同志社の性教育争議

さて、山宣の講演にあつた「十円で首となつた事件」の真相ですが、どうも海老名総長の改選期を前にした学内の事情の中で、山宣が関わっていた京都学連事件の後始末の責任を取らせようと、性教育を口実に山宣が解雇させられたようです。山宣は海老名と「押し問答」(二六年三月二九日)をしています。「教育の進歩向上を計る為の正々堂々たる論議を

公にする必要がある」と迫られて、海老名は「君は公に訴える必要はあつても、こっちは困る」と答えたとあります。こうして、山宣は「古き革ぶくろよ、さようなら」と同志社をさりました*3。

倒された山宣の墓碑

昭和天皇の葬儀には九三億円が計上されました。これに比べ、六〇年前の山宣の葬儀はひどいものでした。参列者は検束を覚悟で臨み、河上肇らの弔辞は次々と弁士中止となり、国会議員でもあつた山宣の葬儀はこうした「未曾有の警戒」弾圧の中で行われました。くわえて、大山郁夫書の「山宣ひとり」の墓碑名を背に負うが故に、山宣の墓石の建立は不許可となり、碑銘のセメント塗りが命ぜられました。

信州別所温泉にも山宣の碑があります。Vita Brevis Scientia Longa (人生は短かしく、科学は長し)と山宣の好んだ句が、ラテン語で刻まれています。この碑は山宣を慕う地元農民組合が、彼の虐殺を悼み建立したものです。これも無事ではなく、天皇政府は取り

壊しを命じました。

昭和天皇との比較で山宣を語るとき、両者の生物学についてもふれておきます。この研究はたった一つの趣味」として、顕微鏡を覗き、磯で採集する「ナチュラリスト」として紹介された業績に、山宣はどう評価を与えるでしょうか。

じつは、山宣が執筆した最初の論文「分類学者幻滅の悲哀（理学界）にその解答が述べられています。これは彼が学んだ当時の、金と暇に恵まれ新種発見に明け暮れる東大の生物科周辺の、様子を批判したものです。東大新人会に共鳴し、生物学会改革派を自認した若き山宣の論文は「共著を含め二〇数冊の著書」となっています。

山宣は明治天皇の死去の際「諒闇の国」と題するエッセイを『加奈陀新報』に寄稿して、「この思想（忠君愛国）の押掛けに気喰わぬ奴に出喰わすと直に「貴様は非国民じゃ、怪しからぬ」と極め付けるやり方」を厳しく批判していますが、当時の日本では発禁ものです。山宣が生まれた年に「帝国憲法」は発布され、彼は忠君愛国の教育を受けましたが、

カナダでの苦学時代にそれをクリアしていた。した。

同志社人としての山宣の死

「令息宣治様には慮外なことで非業の死を遂げられ誠に御気の毒に存じ上げます。……二月二日夜同志社出身者東京会館に集まりて宣治様の御話を承りました。……六日の午前一時半頃私は光栄館へ参りて告別しました。丁度皆様がデスマスクをとりおえられました……宣治様の死は深い波瀾を日本の社会に捲き起こしませう。決して空しい死ではありません。自ら信ずる主義のために生命を棄てられたのです。」（三月八日、山宣の母宛）これは村田勤（元四条教会牧師）の、彼の死後の遺族宛の手紙の一部です*4。

同志社倶楽部で山宣は講演の後半で、自らの立場を「我々労働農民党は安部さんの社会民衆党の右翼」からは、「過激だと云われ……村田勤先生から叱られますが、自分は議会での無産党の立場から徹底的に闘っていると、具体的に話しました。同志社から二年前に辞めさせられています、このように山宣を受け

入れる先輩・同僚の存在は、日々「孤塁を守る闘い」を迫られていた山宣にとつて心やすまるものだったでしょう。

告別式の弔辞は同志社校友代表磯田義治がしていますが、死後もこの様に、彼の母や生家「花屋しき」に手紙が幾つも届けられています。油谷治郎七（元四条教会牧師）、高橋元一郎（同志社普通学校の同級生）等です。

三月二三日付けの村田の手紙（母、長男宛）、「昨夜東京会館で同志社クラブの会合がありました。……同じ五階の室で、追悼会でないことにして追悼しましたが、それでも刑事が来ました」*4。

山宣の死を時の同志社人は、「古来幾多の社会解放史はかかる殉教者の血を以て彩られています」（油谷）と語り、山宣はまさに、新島の教えの通りの「一国をきよむるには多くの義人の血を要す」（高橋元一郎）、の実例に讃えられました。反戦平和と国民の生活の向上のスローガンを掲げ、「不当なる権力」と非妥協的に闘った一同志社人として、今後とも語り継がれる意義があると思います。

*1 中学校教諭・同志社山宣会事務局長
*2 佐々木敏二著『山本宣治（上）』（汐文社）によ

ると、昭和三年一月、柏木義円「新島先生伝に

見た新島先生」。

就いて、同年三月、安部磯雄「選挙の感想及び

*2 佐々木敏二著『山本宣治（下）』（沙文社）

今後の政界の推移」、四年一月、金森通倫、私の

*3 和田洋一「同志社・山宣を追放」（山宣五十年

記念事業実行委員会ニュースNo.3）、山宣編著

『性と社会』14号に詳しく述べられている。

*4 いずれも『山宣全集』（第七巻、書簡集）より引用

追悼集 I

（同志社社史資料室編・発行）

——同志社人物誌——明治十年代〜明治四十年

追悼集 II

（同志社社史資料室編・発行）

——同志社人物誌——明治四十一年〜大正四年

追悼集 III

（同志社社史資料室編・発行）

——同志社人物誌——大正五年〜大正十五年

同志社では明治二十年ころから、社長（総長）をはじめ役員、卒業生、教職員、学生生徒が永眠すると、その死亡記事とともに、追悼のことはや故人の略歴などを各学校の機関誌（たとえば『同志社文学』、『同志社女学校期報』、『同志社校友会会報』、『同志社時報』など）に掲げて哀悼の意を表してきた。

その貴重な記事は、これまで古い機関誌の中に埋もれていて、極めて利用しがたい状態にあったが、社史資料室は昨年来、それらの記事の総てを探し出して書物にまとめる作業をおこなってきた。

第一巻には、新島襄、山崎為徳、山本覚馬、森田久万人、片岡健吉らの他、男女各校の関係者約一〇〇名の記事が収録されている。

第二巻には、J・D・デイヴィス、元良勇次郎、市原盛宏らに関する記事の他、第一巻以降の年次に機関紙に掲載された新島襄、山本覚馬、松本五平らの資料も収録されており、約一一〇名の記事を取っている。

第三巻には、松浦政泰、S・B・ニコルズなどのほか、同志社大学教員の川中勘之助、永田伸也、福井貞一、嶺岸四郎など、男女約三〇〇人を収録。上田敏、厨川白村、有島武郎など講師の名も見られる。また、伝染病や関東大震災による多数の死者の記事が痛ましい。

『追悼集』は、それぞれ何らかのかたちで同志社史を彩り、また同志社史を築いてこられた物故者たちを記念するものであるとともに、「同志社人名録」の役割をも果たすであろう。

『追悼集』は各巻（各一五〇〇円）とも同志社収益事業課で取扱っている電話（〇七五二五一三〇三七・八）